



生命誌の広場



テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

季刊「生命誌」

死を含んだ生きもの複合体

投稿日：2015.10.12 名前：岡野桂子

遅ればせながら、86号ありがとうございます。まことにとって生きものは、生きものの複合体、複合社会をなしていると思い知りました。一体、個体って何なんだろうとも。そして、その生と死。先日テレビで、シカの死体が骨になってその骨もなくなり草花が生えているという映像を見ました。'寿命が6ヶ月位かな、こうなるのにも6ヶ月かかっているんですよ'とコメントがありました。タヌキが来てキツネが来て、微生物や菌類、雨風太陽の光のなか、死が他の生命へと拡散してゆき最後に残ったものは土に。自然に帰る。今まで生きているばかりに目がいって、死の後の過程にまで思いがいてませんでした。このところ、色々な意見、論争に心が振り回されていました。先生の'皆で楽しみながら地球の素晴らしさを共有する'という言葉に、足元を支えられた気がします。ここから出発しようと。そして、'距離と尊厳をもって自然と接する'。これは、他家を訪問する時のおじゃましますという気持ちかなと。反対は土足でズカズカ踏み込み踏みこむ。崔さんのプロジェクトの実現、心から応援したいです。

お返事

投稿日：2015.10.14 名前：中村桂子館長

「生命誌」お楽しみいただきありがとうございます。
崔さんのプロジェクトは夢であり、現実である点が魅力です。
いつか本当にできるとよいですね。



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンラリー開催(19.10.01)

